

青山俊三

あおやま・しゅんぞう

医師、尾道市議会議員、尾道市長(第20代)

経歴

生: 明治32年(1899年)1月4日、尾道市栗原町川上生れ

没: 平成元年(1989年)、享年91歳

大正7年(1918年)	19歳	広島県立福山中学校(誠之館)卒業
大正12年(1923年)	24歳	岡山医大専門部(内科)卒業
—	—	阪大楠本内科で研究
—	—	大阪長谷川病院の内科医長
昭和2年(1927年)9月	28歳	郷里で独立開業
昭和15年(1940年)6月	41歳	栗原町に出て、病院組織に改める
戦時中	—	町内会長
戦後	—	尾道市会議員(同志会を率いる)
—	—	尾道市議会議員
—	—	尾道市議会議員
—	—	尾道医師会会長
—	—	尾道北高校 PTA 会長
—	—	栗原中小学校 PTA 会長
—	—	尾道市教育委員長
昭和33年(1958年)7月	59歳	病院に精神科を併設
昭和34年(1959年)5月1日～ 昭和38年(1963年)4月29日	60～ 64歳	尾道市長
昭和35年(1960年)	61歳	藤井川上水道企業団の設立
昭和35年(1960年)	61歳	中四国連絡道路建設促進尾道市民大会の開催
昭和35年(1960年)	61歳	尾道市新庁舎の落成
昭和36年(1961年)	62歳	尾道市老人クラブ連合会発足
昭和36年(1961年)	62歳	交通安全都市宣言
昭和38年(1963年)3月	64歳	尾道公会堂完成
昭和38年(1963年)	64歳	備後工業整備特別地域の指定を受ける

生い立ちと学業、業績

青山俊三氏は尾道市栗原町川上の産、明治32年(1899年)1月4日生れ。広島県立福山中学校(誠之館)から、岡山医大専門部に進み、内科を専攻して大正12年(1923年)卒業した。

阪大楠本内科で研究後、大阪長谷川病院の内科医長として世に出て、昭和2年(1927年)9月郷里に帰り独立開業した。

昭和15年(1940年)6月、病院組織に改め、医者稼業のかたわら町内会長などもつとめた。

戦後市議に出、市会では同志会を率いて当時の親和会と対立し、後半には議長を3年ばかりやり、与党として石原市長を補佐した。

2期目の市議会では隠然たる勢力で大御所として重きをなし、堀田議長挂冠に伴う後任問題ではいろいろの紆余曲折はあったが、結局自身が議長とならないと決着がつかないほどの仁者だから単なるお医者さんではない。

2度目の議長を勤めたあとは、楫賀正二氏にバトンを譲った。

昭和34年(1959年)4月に行なわれた尾道市長選挙に、政界の古豪天野彦三前市長を向うに廻して見事当選、5月1日には、第20代市長に就任した。

就任時には隣接町の合併も一段落しており、時代はあの高度経済成長期へ向けて助走を開始していた。

青山市長は落成した尾道市新庁舎の主として、工業用水・飲料水の確保のための藤井川上水道企業団の設立、中四国連絡道路建設促進尾道市民大会の開催(昭和35年)、尾道市老人クラブ連合会発足、交通安全都市宣言(昭和36年)、尾道公会堂完成(昭和38年3月)、松永湾総合開発、工場誘致、中国四国を結ぶ夢の掛け橋、陰陽連絡道路の拡充などに治績をあげた。

備後工業整備特別地域の指定を受けたのも昭和38年のことである。

力強い産業の発展と共に市の交通事業も装いを新たにしていく。

昭和35年5月、市内本線、亀川線、久山田線の増強と北久保線運行のため全面ダイヤ改正がなされた。

続いて東行きバスセンターの新設工事、吉和車庫、ブロック塀新設工事などが進められ、昭和36年10月には、尾道市運輸課が交通部に改称され、企業管理者が設置された。

このとき索道事業も一般会計から移管されている。

また、この年は国鉄山陽本線(岡山～三原間)が電化された。

昭和37年には、車両、マイクロバス、いすゞエルフ21人乗りを初めて購入、昭和38年自家給油地下タンク(1万リットル)1基埋設など、市の交通事業はめざましい充実ぶりを示した。

このように医政治家として存在が認められ、尾道医師会会長、尾道北高校PTA会長、栗原小学校PTA会長、尾道市教育委員長などもつとめあげた。

体重90キロを超える巨漢で、一見芒洋として掴みどころのない風格をみせており、氏の人生

観も「自分の実力は八分出せ」という。

このことは仕事に対して不熱心になれというのではなく、手一杯のものを抱き込むなという意味である。

戦後産制の声に応じて避妊薬「ルーエ」を売出したかと思えば胃の専門薬「征酸」を世に出し、病院は、昭和33年(1958年)7月に精神科を併設し、岡山医大の分院格、県指定病院である。

市内屈指の高額所得者でもある。

千代子夫人との間に二男三女あり、学生時代から相撲、柔道、テニスなどの選手であった。

(出典1)(出典2)

出典1:『備後備中肖像名鑑(郷土を創りつつある人々)』、8頁、備後文化出版社刊、昭和35年6月

出典2:『日本の歴代市長』

2005年6月3日更新:本文・出典●2006年4月3日更新:タイトル●2007年10月4日更新:経歴●2008年2月14日更新:経歴・本文●